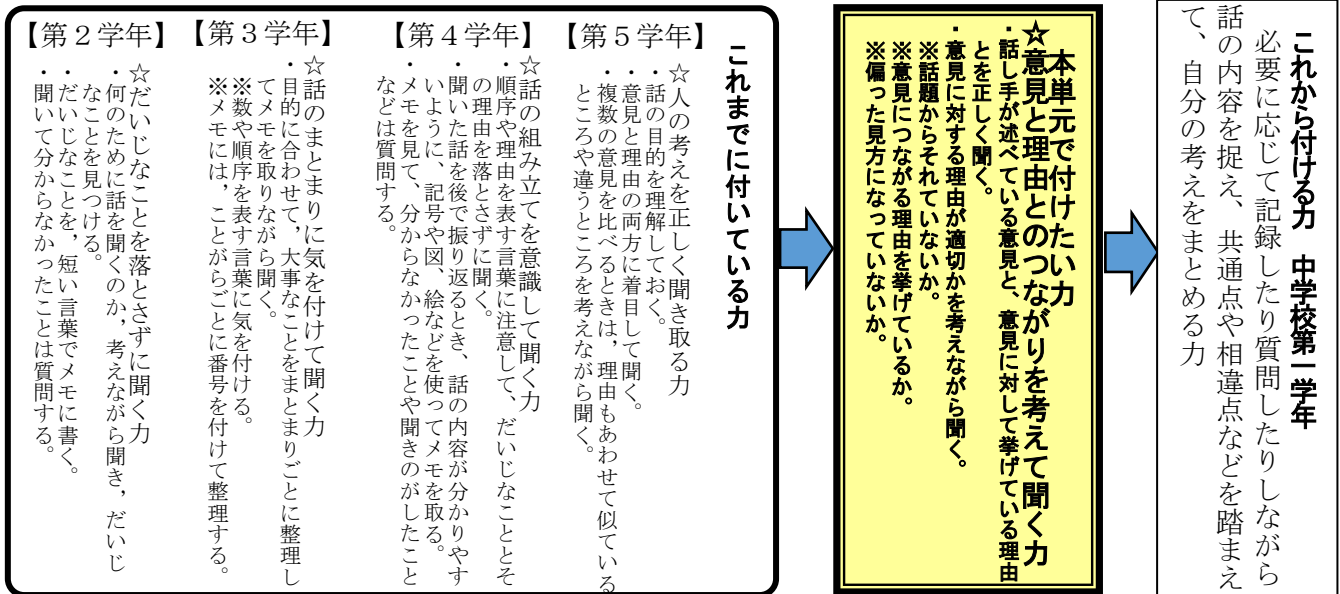


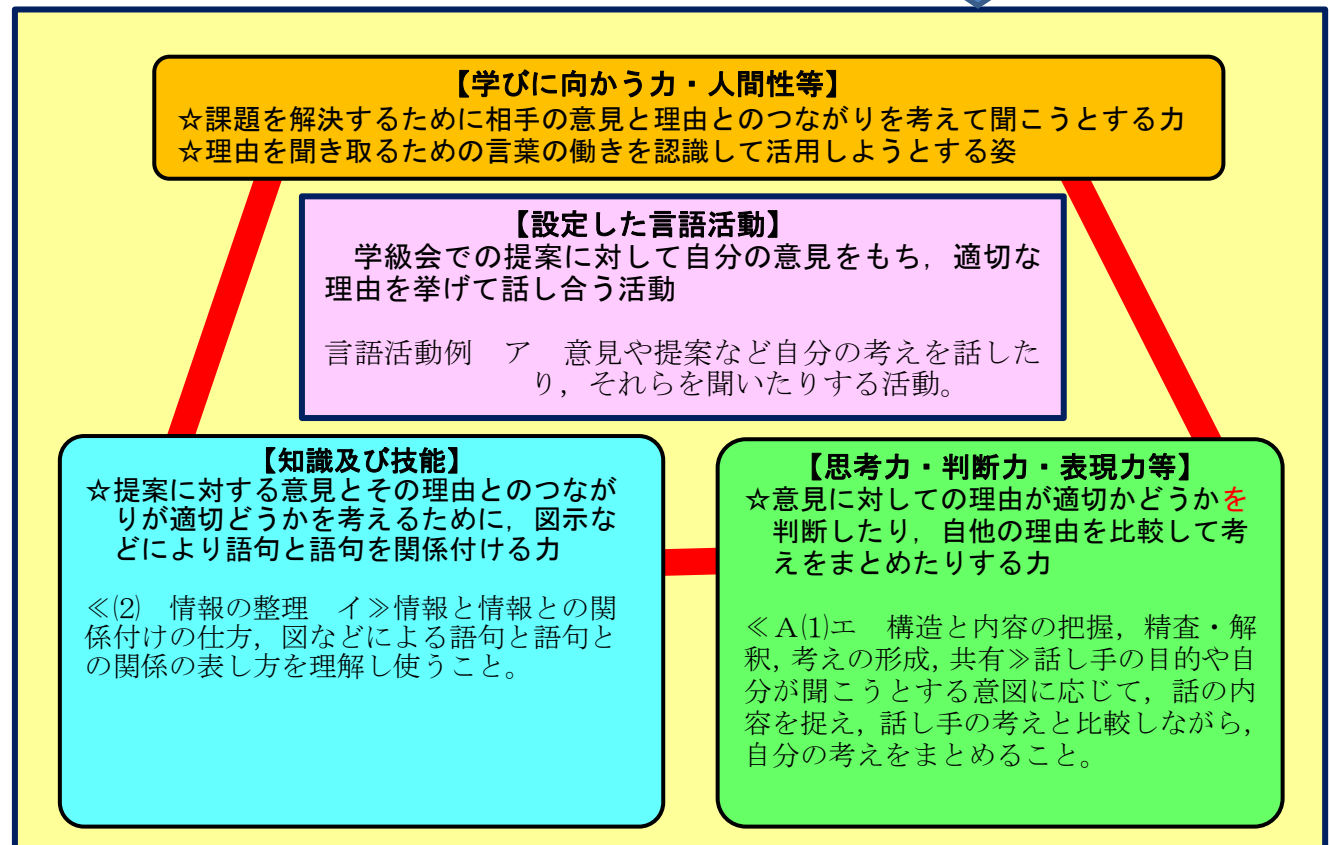
【2019年度 研究テーマ】 学びに熱中する子どもの育成
―見方・考え方を働かせて学びを深める国語科授業づくり―

1 単元名 学級会で相手を納得させるためには
 教材名 「意見と理由とのつながりを聞き取ろう」（東京書籍6年）

2 単元の系統性 A 話すこと 聞くこと （聞くこと）



3 本単元で付けたい力の内容【資質・能力】と設定した言語活動



4 単元について

(1) 児童の実態

3学期に行った高知県学力定着状況調査では、国語科「話すこと・聞くこと」の領域の1-(1)「話し手の意図を捉えながら聞くこと」「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話す」に課題があることが分かった。「話し合いの中で出た意見の共通点を理解しふさわしい言葉を書く。」ことにも誤答が多く見られた。話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じてメモを取りながら聞くことに慣れておらず、解答用紙のメモ欄に何も書かない、長文を延々書く回答があった。

特別活動の時間には、提案に対して自分の考えを伝えることができる児童は多い。また、意見に対して理由を挙げて発言する姿も見られる。けれども、その理由が具体的な根拠に基づいていないものや意見に対しての理由が主観的であったり、利己的であったりする場面も多くある。また意見に対して多様な理由を認めることはできても、適切かどうかという判断基準をもつ児童は少ない。

(2) 教材の特性

この教材では、学校生活をよりよくするための提案に対して述べられている意見や理由を、メモを取りながら聞き合うモデルが提示されており、それぞれの意見と理由とのつながり方が適切かどうかを思考・判断できるものとなっている。教材の三つの発言例は、意見は明確にあるものの、その意見に対する理由が意見と食い違うもの、意見からそれているもの、偏った考えを理由として挙げているもの等、意見と理由が適切につながっていないところがあり、メモをもとに意見と理由とのつながりの整合性について考えることができる学習材である。

高学年になると学校生活の中で、他者と意見を交わす場面が増えてくる。質の高い話し合いを成立させるためには、意見と理由を聞き取り、そのつながりが適切であるかを吟味、判断する必要がある。高学年では、友達の発言内容を主観的な「好きか・嫌いか」や自分と「同じか違うか」だけではなく、より客観的、より論理的に判断できる観点を身に付けさせたい。そのために、この教材で、話し手の意見とその理由をメモに記録しながら整合性があるかを検証し、相手の考えを正しく理解することを通して、話し手の理由と自分の理由を比較したり、考えをより深めたりすることを目指す。

(3) 指導の文脈

本単元では、学級アンケートで出された提案に対する意見と理由について話し合う言語活動を設定する。学級アンケートでは、「もっと仲の良い学級にするため」に一人一人から提案が出された。それらの提案に対して、まず、自分の意見を持つこと、その意見と理由を実際の学級会で話し合う状況をつくることで、児童が学習した資質・能力を駆使して問題を解決できる単元としたい。そのために、実際の提案に対しての自分の意見とその理由の話し合いを通して単元の目標に迫りたい。

第一次では、提案1「もっと仲のよい学級にするために、昼休みは全員で外遊びをする」に対して、児童に意見とその理由を書かせる。それを学級で交流させながら、説得力のある意見と理由を紹介させる。その中で、説得力のある理由の条件（既習事項）を確かめつつ、意見に対する適切な理由（未習）を挙げることの難しさを自覚させ、解決の見通しを立てさせる。

第二次では、提案2「学級で気持ちよく過ごすために、昼休みに全員で整とんをする時間をつくる」に対して意見と理由を再度書かせる。それを交流したり、適当な意見と理由を取り上げ、吟味検討したりしながら、意見と理由との適切なつながり方（①理由が伝えたい話題からそれていないか、②理由が提案や意見とつながっているか）を検討する。その中で、取ったメモを効果的に生かすための図示の仕方を身に付けさせる。

本時（第二次 第2時）は、今まで学んだことを生かしながら、提案3「読書を好きになるために、夏休みには、マンガを読むようにする」に対する自分の意見と理由を書かせる。そして、交流を通し

て、友達の見解と理由が適切かどうか(③偏った考えになっていないか)吟味検討させ、自分が書いた意見と理由が適切であるかどうかを自己評価できる姿を目指す。

第三次では、学習して得た資質・能力を活用できるように、「もっと仲の良い学級にするために」の学級のなかで適切な理由を添えて話すことの有用性や価値を自覚させ学習貯金としてまとめさせる。

5 単元の目標と評価の計画

(1) 単元の目標

- 話し手が述べている意見と、意見に対して挙げている理由とを正しく聞くことができる。
- 意見に対する理由が適切かを考えながら聞くことができる。

(2) 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】 《話すこと・聞くこと》	【主体的に学習に取り組む態度】
○提案に対する意見と理由の整合性を考えるために、聞き取った意見や理由の語句と提案の語句を関係付け、図示している。(2)イ	○聞き取った提案に対する意見と理由が適切かどうかを判断したり、自分の意見と理由とのつながりが適切かどうかを再考したりしている。A(1)エ	○言葉を通して相手の考えを理解したり、学級の課題を解決する方法を考えるために、提案に対する意見に適切な理由を添えて自分の考えを話そうとしたりしている。

(3) 単元の学習内容と評価の計画(全4時間)

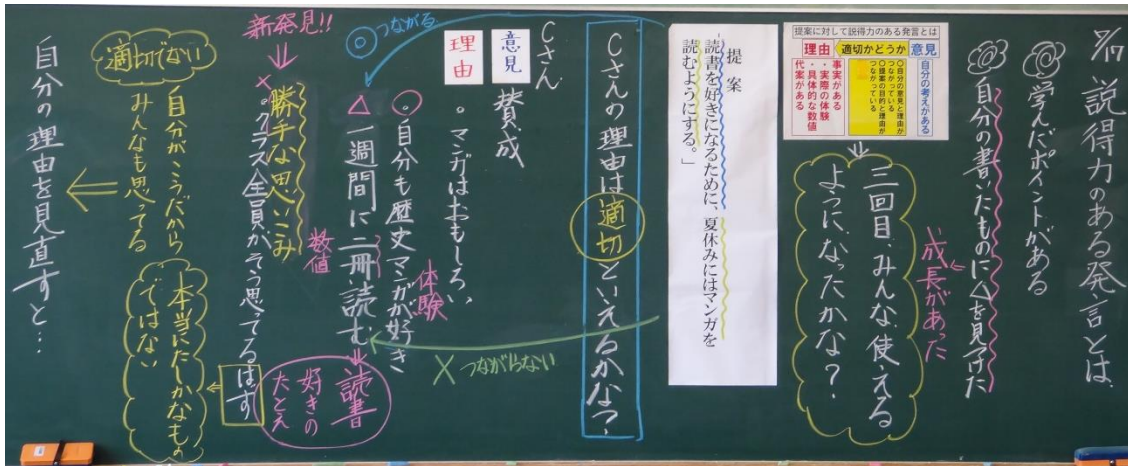
設定した言語活動 学級会での提案に対して自分の考えをもち、適切な理由を挙げて話し合う活動	次	学習内容 児：見方・考え方を成長させる姿	知・技	思考・判断・表現	態度	評価規準 【評価方法】	付きたい力 意見と理由とのつながりを考えて聞く力
	一 次	第1時 ・提案1「もっと仲のよい学級にするために、昼休みは全員で外遊びをする」に対する自分の考えと友達のことを比較する。 児：説得力のある理由ってどんなのかな？	○			○提案に対する意見と理由を互いに発言し合いながら考えを交流し、説得力のある理由の条件をまとめている。 《(2) 情報の整理 イ》 【ノート・発言】	
二 次	第2時 ・提案2「学級で気持ちよく過ごすために、昼休みに全員で整とんをする時間を作る」に対する自分の考えと友達のことを比較する。 児：発言をメモにすると、意見と理由の適切なつながり方が見えるぞ。	○			○意見に対して理由が適切かどうかを判断する観点を考え、理解している。 《(2) 情報の整理 イ》 【発言・ノート】		
三 次	第3時(本時) ・提案3「読書好きになるために、夏休みには、マンガを読むようにする」に対する自分の考えと友達のことを比較する。 児：友達の意見と比べると、私の理由は適切とは言えないかもしれないな。		○		○意見と理由が適切かどうかを判断する観点で、自分の意見と理由とのつながりが適切か再考したりしている。 《A(1)エ 構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有》(聞くこと) 【発言・ノート】		
	第4時 ・今後の学習に生かすための学習貯金を作成する。 児：提案に対して意見と適切な理由があれば、より説得力のある発言ができそうだ。				○学級の課題を解決するためには、提案に対する意見に適切な理由を添えて話すことの有用性や価値を自覚している。 【ファイル・発言】		

【単元のゴールの活用】

- 学級会や授業の中でも、提案に対して意見や理由を明確にした発言ができる姿

6 本時の学習

- (1) 目標 聞き取った提案に対する意見と理由が適切かどうかを判断したり、自分の意見と理由とのつながりが適切かどうかを再考したりできる。
- (2) 問うべき問い どうして偏った見方の理由が適切とはいえないの。
- (3) 評価規準 友達の意見と理由を聞いて、適切かどうかを判断したり、自分の意見と理由とのつながり方を比較したりしている。【発言・ノート】



学習活動

○教師の手立て

★評価規準

1 前時の振り返りをする。

○前時の学習を振り返る。

2 お互いの意見とその理由を聞き合う。

○読書好きになるために、夏休みには、マンガを読むようにする」

○意見と理由とのつながり方を考えながら聞かせる。

○メモを見返して、それぞれの発言について意見と理由とのつながりが適切かどうか判断させる。

・理由が意見からずれていないか ・提案に対する意見と理由がつながっているか

○適切な理由を述べていた友達を紹介させる。

3 教師が用意したモデル文の意見と理由が適切か判断する。

提案や意見に対して適切な理由といえるかな？

○メモをもとに理由を確認し「適切でない」ところを共有させる。

※ここでは、理由にある根拠が自分本位な見方（偏った見方）で述べられていることに着目させる。

問うべき問い「どうして偏った見方の理由が適切とはいえないの」

・一方的な偏った見方になるから

・具体的な理由がないから

・一般的な事実とは言えないから

3 自分が書いた意見と理由とのつながり方が適切かどうか見直す。

○互いの理由の内容が適切かどうかペアで確かめさせる。

※偏った見方になっていないかどうか。

★友達の意見と理由を聞いて、適切かどうかを判断したり、自分の意見と理由とのつながり方を比較したりしている。【ノート・発言】

4 学習を振り返る

○自分の書いた意見が適切かどうか児童に吟味検討させる。

・どのポイントが使えているか

・どんな効果があるのか

○今日の学びを発表させながら成長をメタ認知させる。

◎本時の学習で国語的な見方・考え方を働かせている姿とは？

それは、児童が、意見と理由とのつながりを考えるために、理由が適切であるかどうか判断する観点や発言のなかの具体的な言葉（メモ）に着目して（見方）、説得力のある理由かどうか判断している（考え方）姿である。